

栄東地区 学校配置検討委員会ニュース

2024年10月 発行

栄東地区では、栄東小学校と栄緑小学校の小規模化による課題の解決等のため、令和5年2月より「学校配置検討委員会」を設置し、検討を進めています。

令和6年9月3日に第7回検討委員会を開催いたしました。検討状況につきまして、地域の皆様へお知らせします。ぜひ多くのご意見をお寄せください。

検討委員会の配布資料等については札幌市教育委員会のウェブページに掲載しています。資料は右記の二次元コードよりご覧ください。

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/sakaehigashi.html>



1. 取組案を進めることによって期待できることについて

資料3▶



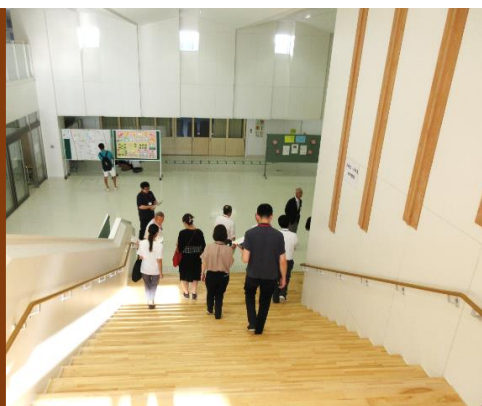
前回第6回検討委員会の中で、「校舎にまちづくりセンターや児童会館を複合化する案として、同様の複合化の事例として隣の地区に栄西小学校がある。統合後の新しい施設をイメージするためにも一度施設見学ができれば良い。」というご意見があったことから、委員会開始前に検討委員の皆さまと栄西小学校、栄西まちづくりセンター、栄西地区会館、はんのき児童会館を見学しました。当日は、栄西小学校校長や栄西まちづくりセンター所長より複合施設に関するお話をいただきました。

その後、近年の新改築事例を紹介した資料3に基づき、「取組案を進めることによって期待できること」について協議を行いました。

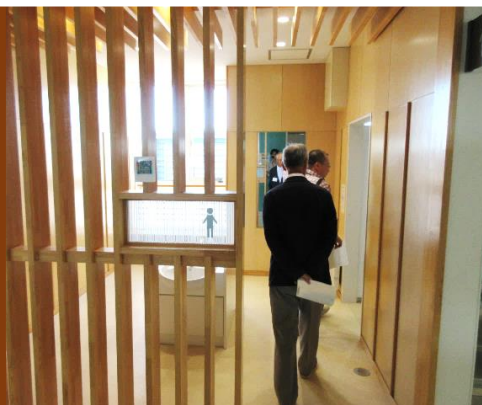
(施設見学の様子)

ワーク
スペース

中央階段

2階
廊下

トイレ

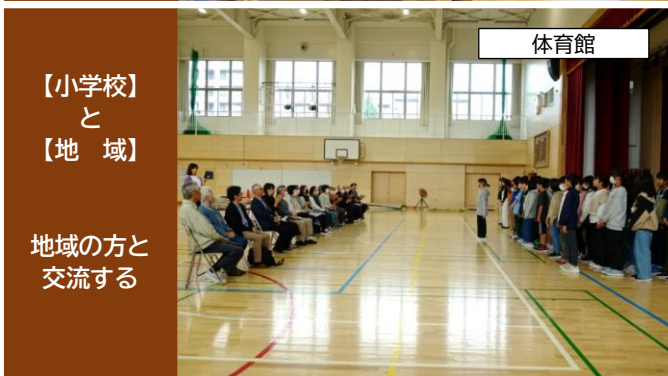


栄西小学校校長から

- ・栄西小学校では、体育館も改築され、暖房が新しくなり稼動音が小さくなった。また、これまでは2階に配置されていることが多い防災備蓄庫が1階に配置されたことによって、避難所運営がしやすい校舎となった。
- ・教室横にワークスペースが整備されており、教室と廊下の間に広いスペースができて給食の配膳スペースが確保可能に。授業中に移動する際も他のクラスの邪魔にならず移動ができるなどのメリットがある。
- ・教室には可動式の間仕切りがあるため、集中が必要な場面では教室の壁を閉じるなど、多様な学習環境を生み出すことが可能である。
- ・オープン型の教室であることで、授業参観時の保護者からも好評だと聞いている。
- ・校舎の位置にあわせて、玄関の位置と子どもの動線も変わる。学校の改築に伴い、児童の通学路、通学安全について見直しが必要になる。
- ・学校にまちづくりセンターや児童会館が複合化されたことで、町内会との交流の機会が持てている。実際に臨時休校となった際にも、児童会館との連携をスムーズに行うことができた。
- ・一方で、学校以外の施設も複合化し建物自体が大きくなったことで、改築前よりもグラウンドの広さが狭くなったのは事実。

栄西まちづくりセンター所長から

- ・栄西小学校では、複合施設であるため物理的だけでなく、心理的にも距離感が近くなり、地域について学んだり、交流したりする、双方向のコミュニケーションの機会が増えた。
- ・学校・保護者・地域住民が協力して、地域全体で子どもたちを育てていくという意識が複合化によりさらに強くなった。
- ・小学校、児童会館と地区会館が隣接し、学校が地域との交流拠点という側面をもって、子どもたちを見守っていく環境を施設面から支えることができている。



当日の委員からの意見や質疑の応答（※）と併せて概要を掲載しています。

※ 類似の発言内容をまとめるなど文言を整理して掲載しています。

「○」…委員からの意見 「●」…質問等 「⇒」…委員、札幌市・教育委員会からの説明、回答

- 実際に複合された施設を見て、今後の学校はこうなっていくのだと期待を抱くことができた。
- 新しい時代の施設・設計の考え方で建築された大変素晴らしい校舎、施設であると感じた。
- 新しくきれいな校舎やまちづくりセンターもさることながら、学校が地域の拠点となる、人と人がつながる場所になっていることを実感した。
- 学校にまちづくりセンターや児童会館が複合化されていることにより、学校と地域の交流、児童会館との連携もスムーズに進むと感じた。
- 人とのつながりが希薄になってきている世の中で、物理的に距離が近くいつでも相談し合える、そんな地域の拠点が栄東地区にもできれば、地域の発展につながっていくように思う。
- 複合化により、グラウンドが狭くなったという説明があったが、栄西小と栄東小では、敷地面積や学校規模で比較した時にどれくらい違いがあるか。

⇒栄西小の敷地面積は、約 12,000 m²、栄東小の敷地面積は、約 14,000 m²。令和 6 年度の通常学級の児童数は、栄西小が 434 人（16 学級）、栄東小と栄緑小を単純合計すると 685 人となる。ただし、栄東地区の児童数は明らかな減少傾向にあるため、数年後には今年度の栄西小と同程度の学校規模（学級数）になる見込みとなっている。

⇒また、今後の協議にもよるが、これまでに数多く意見が出されている通学区域の変更や指定変更区域の設定の仕方によっては、統合校の児童数はさらに少なくなることが考えられる。

⇒なお、栄西小にはプールが整備されているが、現在、札幌市では、今後の学校改築時にプールを整備しない方針で検討中であり、活用可能となる敷地面積はさらに増える見込みである。（教育委員会）

2. その他（取組案に関するご意見等）

- 統合後の通学区域については、通学距離の長さや大きな道路を渡ることなどを考えると、現在の栄緑小校区の北光線以西地域を栄北小も選択できるような指定変更区域を設定する等の検討が必要に思う。
- 仮に栄東小敷地において統合校を開校するのであれば、現在の栄東小と栄緑小の校区内全ての児童を対象とするのではなく、これまでも寄せられている地域や保護者の方々の意見も取り入れながら、学校配置検討委員会としての通学区域の案を決めていくと良いのではないかな。
- もし仮に統合になった場合、栄緑小校区内の百合が原 1 丁目から 3 丁目、北 5 0 条東 5 丁目から 7 丁目と北 5 1 条東 5 丁目から 7 丁目は、栄東小学校まで非常に遠い区域。この区域については、より近い百合が原小や栄北小に通学できるようにするなど、子どもたちや保護者の意見を尊重してできるようなことを次回以降に検討した方が良い。

⇒次回は、第 3 回検討委員会で配布した通学区域に関する事務局案資料を用いながら、改めてどのような通学区域とすべきか協議いただきたい。（教育委員会）

- 現在よりも広い範囲から通学することになるのであれば、PTA の方々、交通安全母の会や交通安全運動推進委員会など、様々な方々と協力して交通安全を確保していく必要がある。

○やはり、統合後の栄東小学校までの通学路の交通安全、特に冬季における除雪体制をしっかりとしてほしいということが、この検討委員会としての要望となる。

⇒前回この検討委員会における検討のスケジュール感を委員の皆さまと共有したが、今回はこれまでに協議をいただいた項目を整理して、皆さまに最終的に提出いただくこととなる「意見書」をイメージしながら資料化を検討したいと考えているがよいのか。（教育委員会）

⇒一同了承

協議結果：（継続協議）

- ・通学距離や通学安全の観点から、統合後にどのような通学区域を設定すると良いかを中心に協議していく。

委員の交代について

今回の検討委員会から、札幌市立栄緑小学校PTAの検討委員の2名に交代がありました。

次回の検討委員会について

- ▶会議名 第8回 栄東地区 学校配置検討委員会
- ▶開催日時 2024年(令和6年)11月19日火曜日 16時00分から
- ▶開催場所 栄新和町内会館（東区北48条東10丁目3番8号）

※ 検討委員のみが参加する会議のため、一般の方は入場できません。内容は後日ニュースレターやウェブページでお知らせいたします。また、日程は都合により変更となる場合があります。

次回（第8回）検討委員会の議題（予定）

- ▶第7回検討委員会の振り返り ▶地域や保護者等から寄せられたご意見等の共有
- ▶統合後の通学区域（案）について ほか

「取組案」は一つの案であり、決定事項ではありません。
みなさまのご意見を下記事務局までお寄せください。

「取組案」の詳細については、教育委員会のウェブページ（下記二次元コード参照）より、「第1回栄東地区学校配置検討委員会当日資料」をご覧ください。

栄東地区 学校配置検討委員会事務局

- ▶札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課（学校配置マネジメント担当）
- ▶電話：011-211-3836 FAX：011-211-3837
- ▶e-mail：gakkohaichi@city.sapporo.jp

検討委員会の開催概要は札幌市教育委員会のウェブページにも掲載しています。

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/sakaehigashi.html>

学校規模適正化 栄東

検索



さっぽろ市
02-S 01-24-2069
R6-2-1380
SAPPORO